



駄知小学校

I Love だち ～駄知が大好きな子どもの育成をめざして～

地域を学ぶ

「駄知ふるさとかるたウォーキング」

駄知小学校は、明治6年の創立以後、分離・統合することなく、駄知の地域に根差した学校として、150年近くの歴史を刻んできました。地域の人々が作り上げてきた歴史と伝統を次の世代に引き継ぐために、駄知小学校では、地域を学ぶ学習を大切にしています。例えば、駄知を知り、駄知を誇り、駄知を愛する心を育てることをねらいに作成された「駄知ふるさとかるた」については、かるた大会やかるた検定を定期的実施したり、親子で取り組む活動を行ったりしています。かるたが子どもたちにとって非常に身近なものになっており、駄知を知ることができています。そして、秋には、PTA家庭教育委員会を中心に「駄知ふるさとかるたウォーキング」を行います。実際にかるたで読まれている場所を地域の方とともに歩き、実際の場所やかるたの札のいわれを学ぶ活動です。こうした活動を通じ、駄知小学校は今後も「I Love だち」と誇りを持てる子どもを育成していきます。



写真は昨年度のものです



目指せ剣舞初段

たけうちあら た
西陵中学校2年 竹内新太さん

漢詩をもとに独特な節でうたう詩吟。これに合わせ、刀を手に舞う剣舞の道に目覚め、来年に初段獲得を目指すのは、西陵中学校2年生の竹内新太さん。取材に伺ったこの日、平安時代に平家が滅ぶきっかけとなった「壇之浦の戦い」の演目を練習。踏み込んだ足が床に勢いよく当たる時の「バチン」と迫力のある音と、緩急のある身のこなしや刀さばきで圧倒されました。

祖父が剣舞の流派の一つである「北辰神桜流」の師範。祖父から指導を受けて8年目を迎え、今、めきめきと力をつけてきています。剣舞に最初に興味を持ったのは、父親の迫力ある剣舞に圧倒されたことがきっかけ。「お父さんのようなカッコいい足運びや刀さばきができたら」と父の師匠である祖父に稽古をつけてもらうようになりました。

今の目標は、名古屋市内の舞台で行われる来年2月の審査会で、初段に合格すること。「これが叶えば同時に、雅号^{がこう}がもらえる」と意気込むのは、師匠の名前から一文字をもらって、一人前となる自分の名前をもらえるからです。家族で剣舞の道を志す絆の強さを感じました。